

メタデータ流通ガイドライン



※3/18公開予定

<https://iss.ndl.go.jp/information/guideline>

2022.3.22

国立国会図書館 電子情報部 電子情報サービス課

■はじめに：国立国会図書館サーチ？

国立国会図書館サーチの役割をご紹介します。

■「メタデータ流通ガイドライン」とは？

流通ガイドライン策定の背景、経緯をご紹介します。

■「メタデータ流通ガイドライン」の特徴

流通ガイドラインの主な内容をご紹介します。

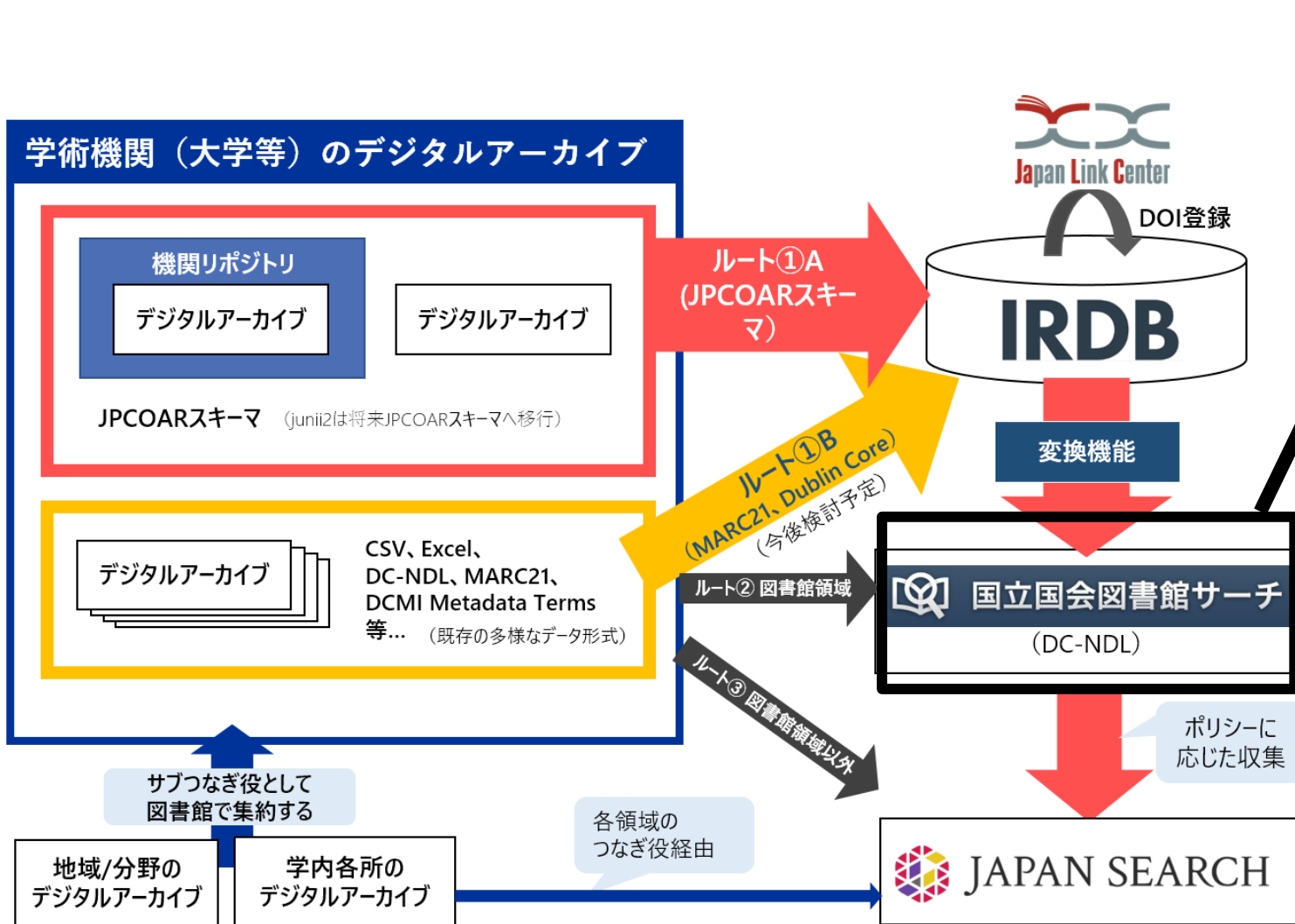
■「メタデータ流通ガイドライン」が目指すもの！

流通ガイドライン、公開後の未来とは…？？



はじめに（国立国会図書館サーチ？）

月刊 JPCOAR

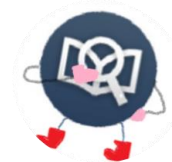


国立国会図書館サーチ（NDLサーチ）の役割

- ✓ 2012年1月正式公開。図書館等が扱う情報資源のメタデータの統合的検索機能の提供。
- ✓ メタデータを集約し、API等により広く流通させ（メタデータ提供プラットフォームとして）、コンテンツの可視性を高め、その利用を促進する。
- ✓ 関係機関との連携の推進、メタデータの標準化・オープンライセンス化等の促進を図る。

集約したメタデータの流通を促進させることによって、連携機関のコンテンツと利用者を結び付ける。

「メタデータ流通ガイドライン」とは？



月刊 JPCOAR

- 主な対象：デジタルアーカイブ、蔵書目録をはじめとする各種データベースのメタデータ設計に関わる方
- 主な目的：図書館等が扱う多様な情報資源の発見可能性を高めるため、持続可能性のあるメタデータ流通を実現する
 - 利用者と結びつけるための情報資源の可視化
 - より効率的、効果的なメタデータ流通

はじめに	ガイドラインの目的、構成、使い方など、 <u>ガイドラインの全体把握に必要な情報を説明。</u> ※改訂サイクルなど今後の予定についても説明。
共通編	<u>資料種別によらない基本的な説明。</u> スキーマを問わず、メタデータ流通に必要十分な情報を示す。 ※資料種別によらない <u>デジタルアーカイブ</u> に関するメタデータは、 <u>共通編にまとめて整理。</u>
資料種別編	<u>資料種別（雑誌、研究データ、…）の単位で必要な項目を説明。</u> ※「雑誌編」を初版公開予定（R4継続作業）
別紙	・ ガイドラインが目指すもの ・ <u>メタデータ流通経路</u> ・ ガイドラインの対象スキーマ ・ メタデータ構造 ・ <u>データ項目一覧（スキーマ間の項目対照表）</u> ・ データ項目一覧（識別子）

「メタデータの相互運用性に関する検討ワーキンググループ（メタデータWG）」実施体制（R3年度）

メタデータWG内の
個別課題の検討班の
ひとつとして活動開始



課題 「デジタルアーカイブのメタデータ流通検討」

JPCOAR コンテンツ流通促進作業部会（メタデータチーム）

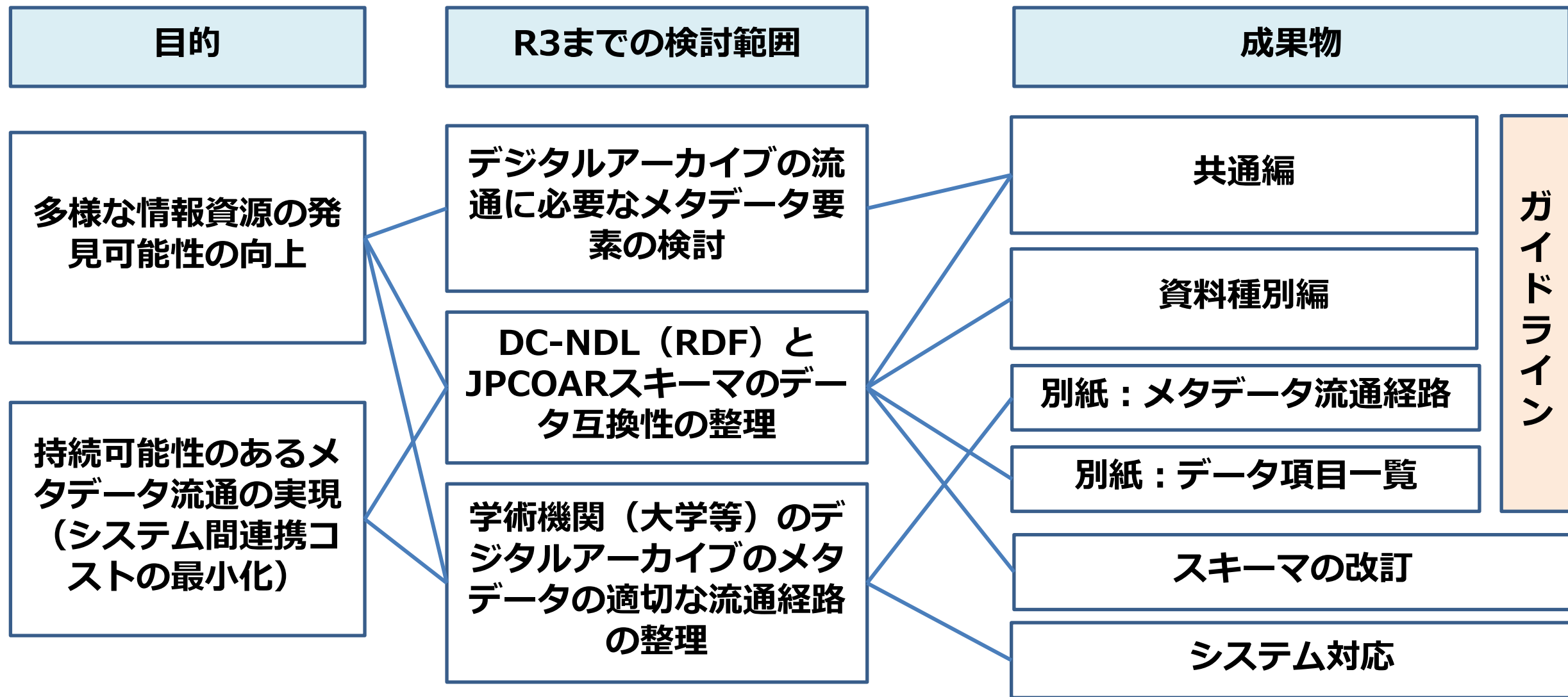
これからの学術情報システム構築検討委員会

NDL：電子情報サービス課等

検討課題：

各大学図書館等でデジタル化された貴重書等のコンテンツについて、ジャパンサーチ等の統合検索サービスを通じてアクセスを可能とするためのシステム、メタデータ、識別子付与のあり方を検討する。

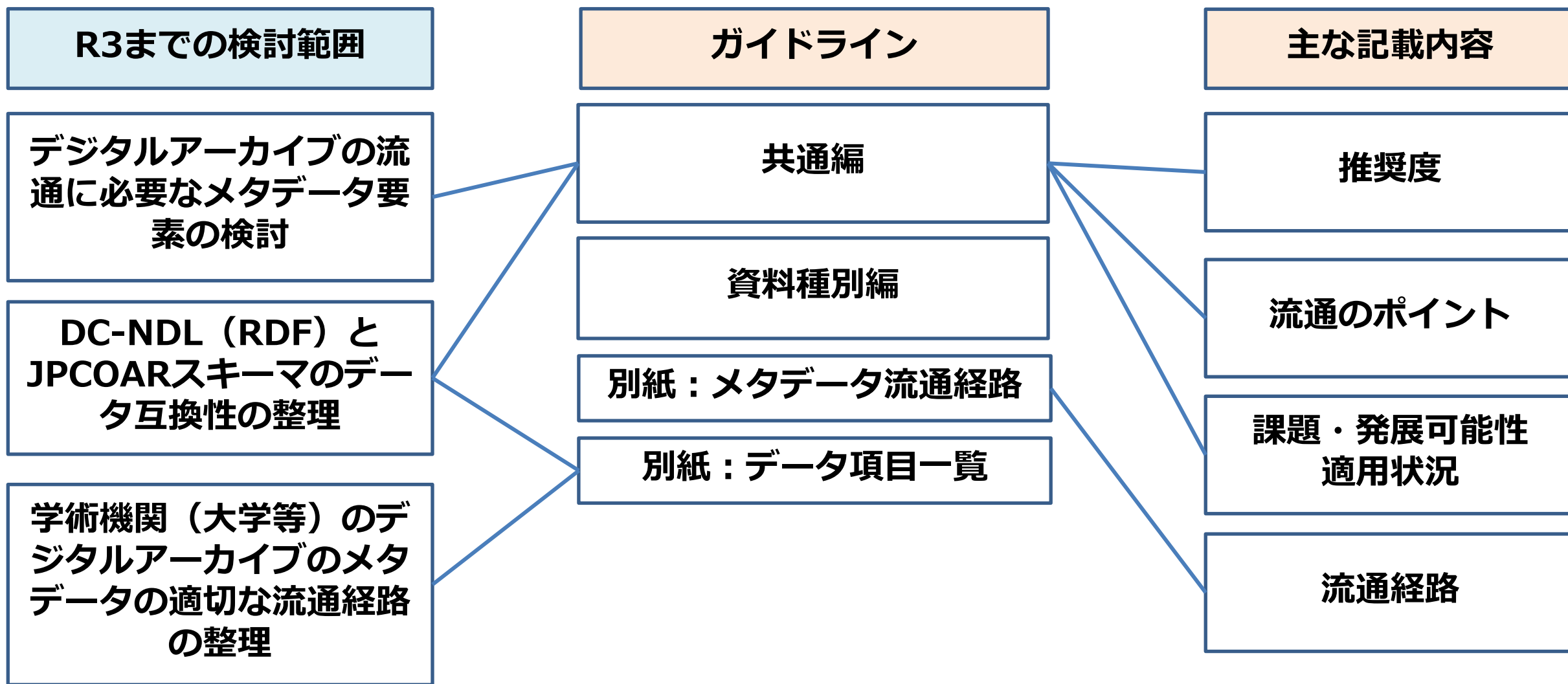
- 設置の経緯
第6回NII・JST・NDL連絡会議（平成31年2月6日）、第7回NII・JST・NDL連絡会議（令和2年2月10日）を経て、三機関が携わるメタデータに関する恒常的な検討体制として設置。
- 設置目的
メタデータの利活用促進に向け相互運用性の改善を検討する。
- 検討範囲
 - ①各種スキーマ改訂時に本WGでレビューを行うことで、利用する側の観点を入れる。
 - ②異なるスキーマ間で項目のマッピング（対応づけ）を検討する。
 - ③メタデータ交換の方法（APIなど）を検討し、相互運用性を改善するために求められることを見いだす。
 - ④データクレンジングに活用するためにメタデータの記述ルールを共有する。
 - ⑤メタデータの著作権を検討する。

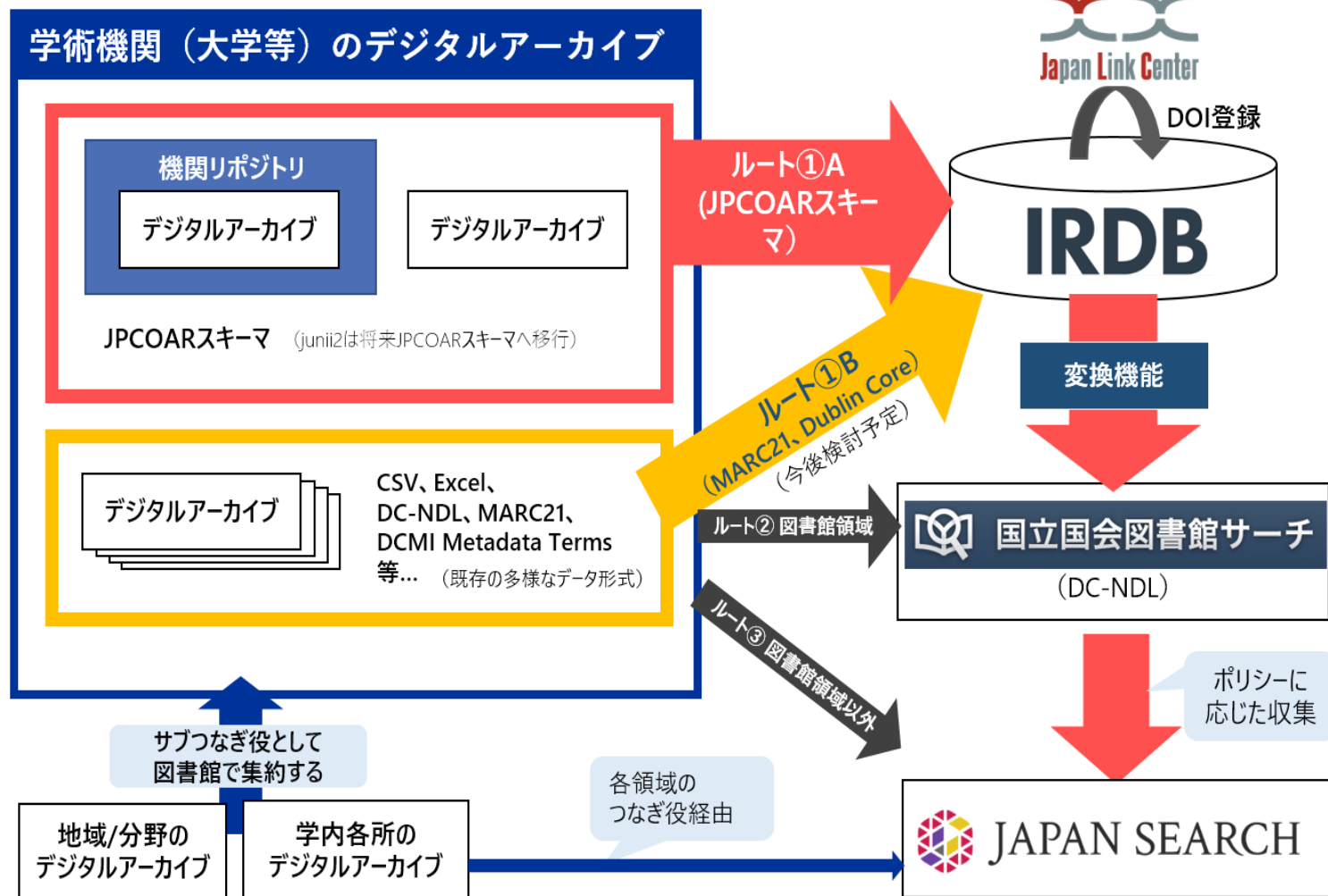


ガイドラインの特徴



月刊 JPCOAR





・ **アグリゲータ同士の連携経路の整理**
IRDB、NDLサーチ、ジャパンサーチといったアグリゲータ同士のメタデータ流通の経路が整理されることで、より持続可能性が高く、国際的な視点を入れた広範囲で、効率的な流通を実現できる。

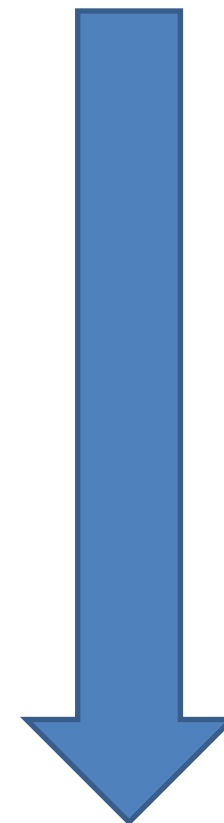
・ **個々の機関に即した経路の選択**
ガイドライン本体と経路図を合わせて利用いただくことで、どのシステムに、どのようなスキーマで提供すれば、より効果的・効率的にメタデータを流通させることができるのかが明確になる。

提供機関、アグリゲータともに持続可能性の高いメタデータ流通を実現することが可能に

メタデータ流通に際して求められる各項目の推奨度を設定

メタデータの
詳細度が上がる

強く推奨 (Strongly Recommended)	多くのサービスでの利用が想定され、メタデータやコンテンツの利用にあたって重要。ぜひ入力いただきたい情報。
推奨 (Recommended)	可能な限り付与することが望ましい情報。入力することで、類似資料との識別がしやすくなるなど、より活用の幅が広がる。
任意 (Optional)	メタデータをよりリッチにするための情報。細やかな検索や高度な利活用にも対応でき、専門的な研究にも資することができる。



利活用に重要な情報（強く推奨）と、よりリッチにしていくための情報を明確に

11.コンテンツ

項番	項目名	推奨度	DC-NDL (RDF)	JPCOARスキーマ	その他
11-1	IIIFマニフェスト	推奨	rdfs:seeAlso rdf:type="http://iiif.io/api/presentation/2#Manifest"/	[jpcoar:URI objectType = seeAlso IIIFother]	
11-2	サムネイル	強く推奨	資料のサムネイル画像URL : foaf:thumbnail	jpcoar:URI objectType = thumbnail thumbnail	
11-3	本文情報 (一次資料)	推奨	一次資料へのリンクURL : owl:sameAs	jpcoar:URI objectType = sameAs fulltext	

コンテンツに関する各種情報は、メタデータ流通の過程においてコンテンツの発見可能性を高めるため重要です。

9-1. ライセンス情報

項目名	推奨度	DC-NDL (RDF)	JPCOARスキーマ	その他
ライセンス情報	強く推奨	[license]	dc:rights	license

流通のポイント

ライセンス情報の記録は、汎用的な形式で出力いただくと利便性が高まります。

CC0	https://creativecommons.org/publicdomain/zero/1.0/deed.ja
PDM (パブリックドメイン)	https://creativecommons.org/publicdomain/mark/1.0/deed.ja
CC BY (表示)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

権利区分の種類について以下のようなページも参照ください。

- 参考) ジャパンサーチ デジタルコンテンツの二次利用条件表示について
<https://jpsearch.go.jp/policy/available-rights-statements>

メタデータのライセンス情報は、流通上必須の項目であり、原則CC0と設定されることが推奨されます。

メタデータのオープンなライセンスは直接のメタデータ連携機関だけでなくその先のすべての利用者に対して利用の可能性を開くものです。ライセンスが付与されていない、または、ライセンスがオープンではない場合、メタデータの利用は直接のメタデータ連携機関に限られるものとなり、メタデータの利活用につながりません。仮にメタデータをオープンデータにできない場合でも、利用者のためには何らかのライセンス情報を付与することが推奨されます。

コンテンツのライセンス情報についても、情報資源の利用を促進する観点から付与することが推奨されます。

スキーマに依らない、メタデータ流通の観点での考慮点などを記載。

メタデータ流通をより効果的にしていくためのポイント。

課題・発展可能性

ライセンスの付与及び流通は、現状のニーズに応じて情報の粒度・推奨度を整理していますが、サムネイル画像のライセンスなど、対応検討中の項目もあります。今後のフィードバックや新たな利用形態の出現に対応して改訂を検討します。

スキーマに依らない、課題、検討予定などについて説明。

DC-NDL (RDF)

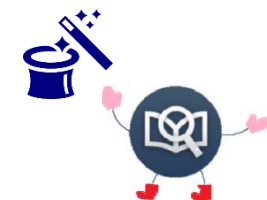
- DC-NDL (RDF) データ例 :
- DC-NDL (RDF) 適用状況 :
次回改訂で、本仕様を適用予定です。

JPCOARスキーマ

- JPCOARにおける格納方法 :
JPCOARではライセンス情報・著作権情報もすべてdc:rightsに格納します。
- JPCOARスキーマ適用状況 :
DC-NDLとの互換性を維持するため、ライセンス情報を新たな項目として設け、メタデータおよびサムネイルのライセンス情報を記述できるようにする予定です。なお、ライセンスを表現する語彙は設けず、データの流通先や助成機関が推奨するライセンスの語彙を使用することを推奨する方向性で検討中です。

対象スキーマの現在の適用状況にとどまらず、検討中の課題や、改訂予定についても説明。

ガイドラインが目指すもの

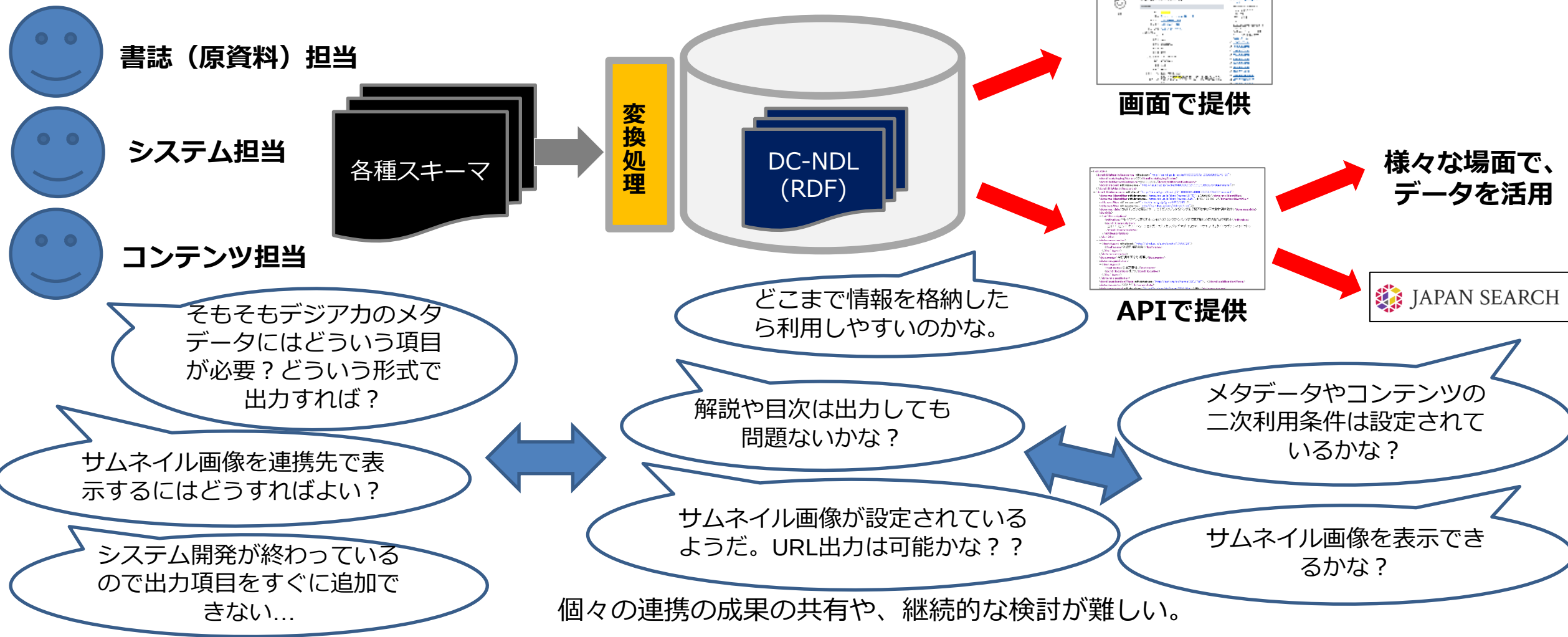


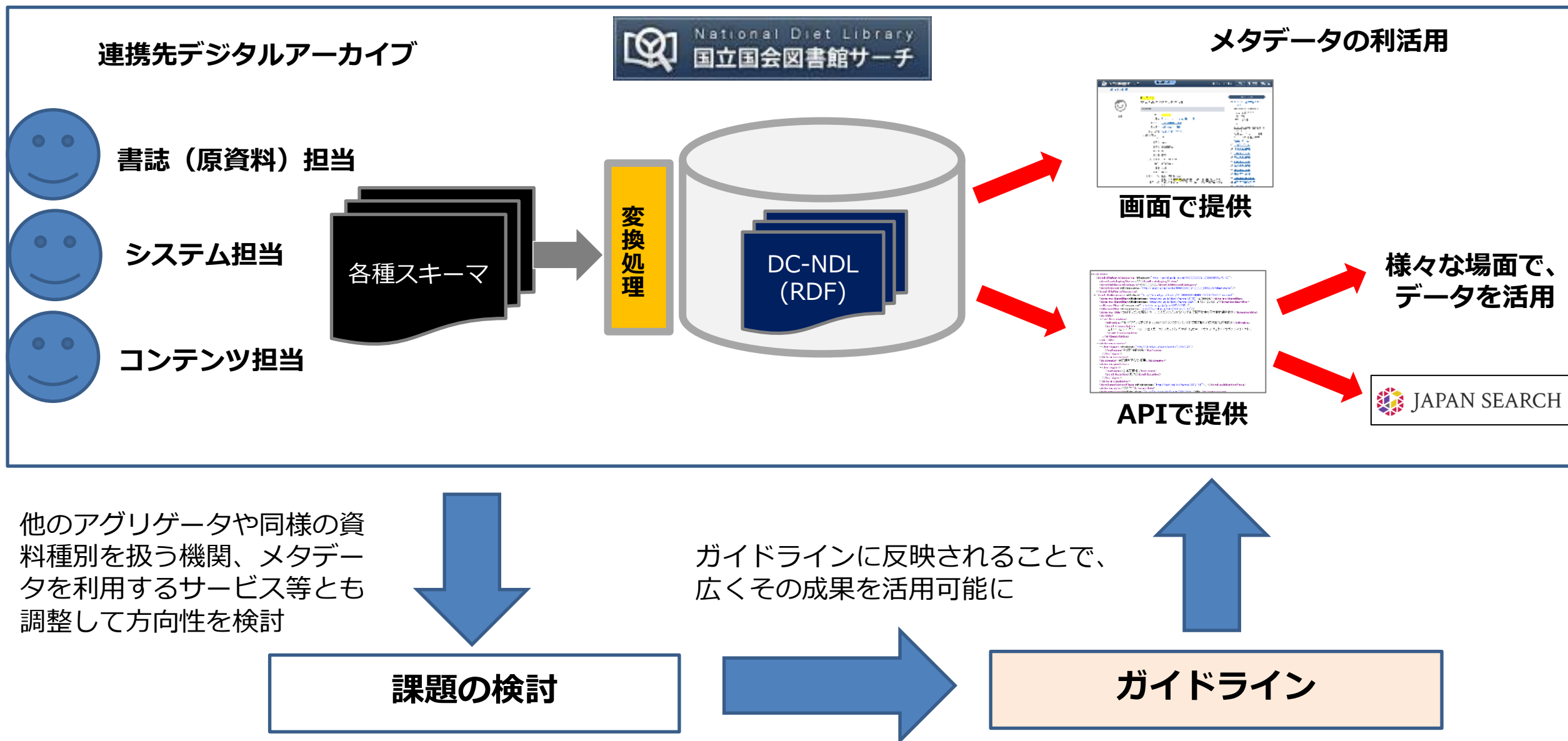
月刊 JPCOAR

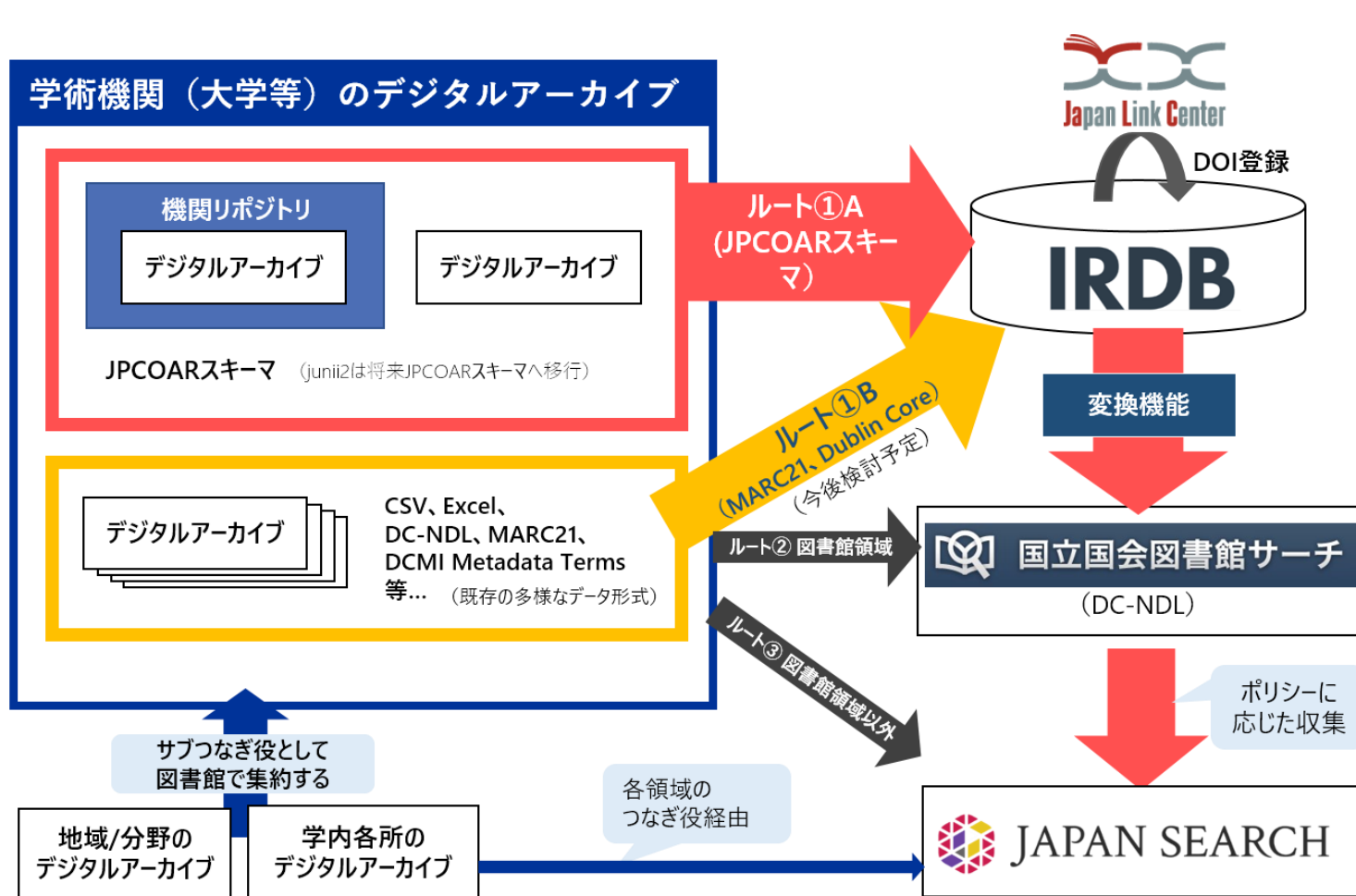
連携先デジタルアーカイブ



メタデータの利活用







ガイドラインは、メタデータ流通の促進を共通の目的とする、複数のスキーマやシステム、機関が対話を行うためのツールでもある

様々な関係者や利用者の
フィードバック

継続的な改善プロセス

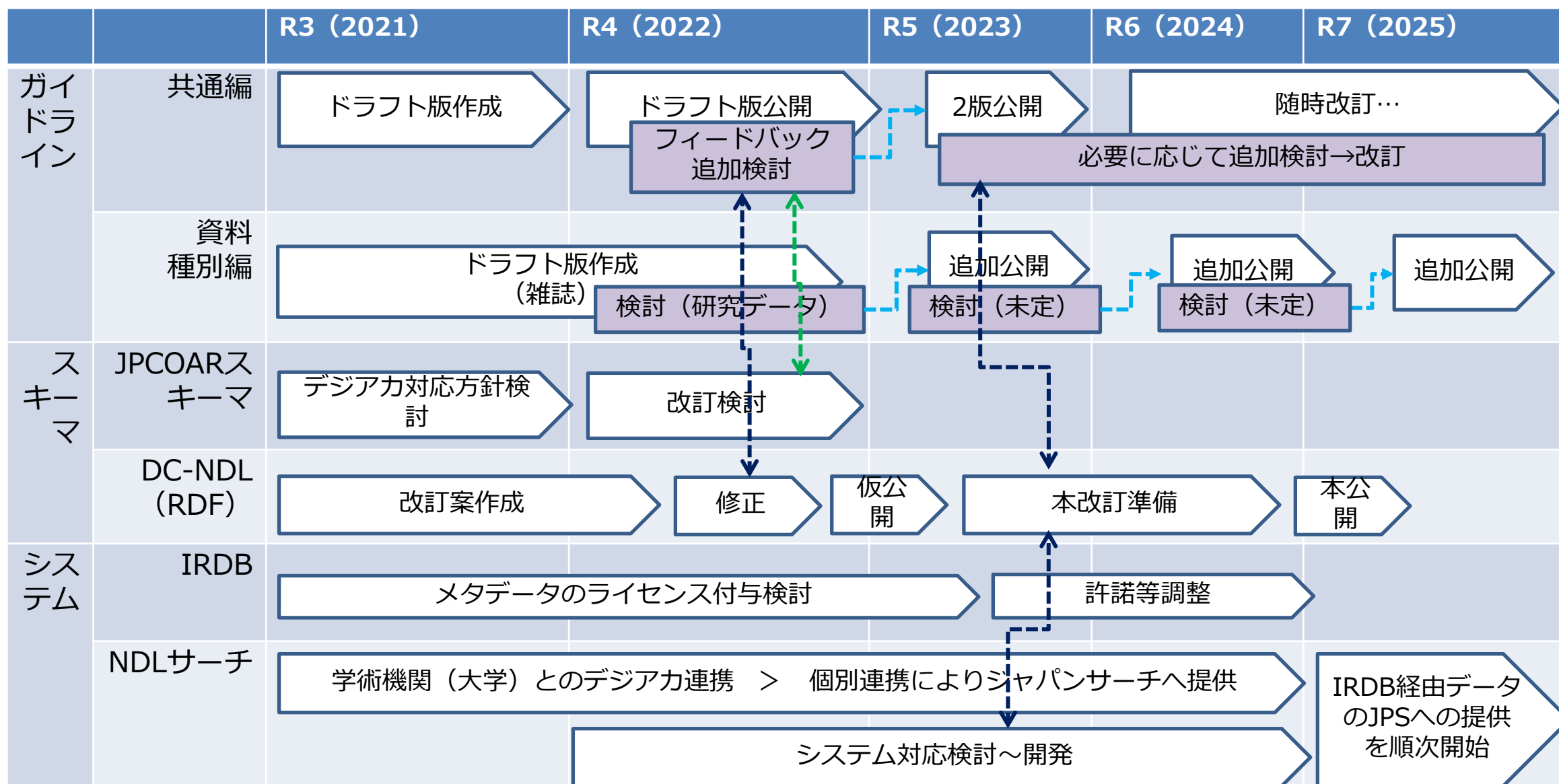
メタデータ流通ガイドライン

目的の達成

多様な情報資源の発見可能性
の向上

持続可能性のあるメタデータ
流通の実現
(システム間連携コストの最
小化)

(参考) ガイドラインロードマップ



ご清聴いただきありがとうございました。

- メタデータ流通ガイドライン ※3/18公開予定
<https://iss.ndl.go.jp/information/guideline>
- 国立国会図書館サーチ連携インタビュー
<https://iss.ndl.go.jp/information/renkei/renkei-interview>
- 国立国会図書館サーチの事業について（連携計画）
<https://iss.ndl.go.jp/information/outline/plan>

